



みんながチャレンジ 明日に向かって 本気でGO!

本郷の輝き

横浜市栄区中野町16-1 電話 891-6813

<https://www.edu.city.yokohama.lg.jp/school/es/hongo/>

横浜市立本郷小学校
学校学年便り冬休み号
令和4年1月7日



6年生の図工作品より

新年明けましておめでとうございます。
創立130周年の記念の年の幕開けです。

校長 山崎 浩一郎

新年は、穏やかな晴天の日が続き、子どもたちも有意義な冬休み、
そしてお正月を過ごされたことと思います。

皆様、新年明けましておめでとうございます。本年もどうぞよろしく願い申し上げます。

さあ、いよいよ2022年がスタートしました。本年は、本校が明治25年（1892年）に本郷村立尋常高等本郷小学校として開校してから、130年目にあたります。

開校当初は、木造平屋の校舎に教室5室、教員2名、児童数299名と記されています。震災や戦争などの苦難をくぐり抜け、昭和46年には、桂台小が独立開校し、昭和49年には、児童数も2295名となり、野七里小、犬山小が分かれて開校しました。さらに昭和52年に公田小、昭和57年には桜井小が本郷小から分かれて開校しています。2022年、この3月には、99名の卒業生を送り出すこととなります。卒業生の数も14689を数え、その数の多さに改めて歴史を感じ、その時々学校を支えてくださった皆様に感謝の気持ちでいっぱいです。学校ホームページでも随時、学校の歴史などを載せてまいりますので、楽しみにしててください。

毎年楽しみにしている箱根駅伝は、青山学院大学の圧勝で幕を閉じました。私も陸上競技をかじっていたので、実は箱根の予選会に出た経験があります。今解説をしている瀬古選手が現役で、当時は宗兄弟、伊藤、新宅といった選手などの活躍も懐かしく思い出されます。

青山学院大学の強さの秘密は、原監督の言葉からも分かります。「日頃から考えさせるということをしている。私は、バシッと答えを言う指導ではない。ヒントを与え、それを選手たちが自分でどうアレンジするかが青学のスタイル」「失敗したときにリーダーが怒らないこと」「うまくいかないときは日々の積み上げが大事。課題を見つけてゴールに向けてどうアレンジしていくか」

選手一人ひとりの主体性を重んじ、考える力を育てていく、これは、今の子どもたちにも大切な資質だと感じています。『予測不可能で先行き不透明な今の時代を自分でどうアレンジし、生き抜いていくのか』を本郷小学校でも大切に、子どもたちの主体性を育てていきたいと思えます。

新型コロナも感染が少しずつ増えてきているので、感染症対策にも万全を期し、子どもたちの健康と安全、そして、心の居場所づくりとしての温かい学校を教職員一同、築いてまいります。どうぞ、本年もご支援をよろしくお願い申し上げます。